

「安心、信頼」を感じてもらおうための具体的営み

「子どもの誕生日は、母親の出産記念日でもある（「雑学BN」の随想等関係（V）P、2006.07.30.：参照）」の記事を目にしてくれたある母親から次のようなメールが届いた。

【 素敵な保育士さんですね。こんな保育士さんに子供を担当していただくと親も嬉しいですね。

こんな事を言っってはちょっと…と思われるかもしれませんが役場へクレームを出しても、所長に何を言おうが、一向に聞き入れてもらえない保育士さんもいます。

それで年功で上がっていきますから、今では、所長…。

公務員は、本当に強いな～ と、お役所だからと諦めた経験があります。

でも、素晴らしい保育士さんもいっぱいいらっしゃいますね。 】

一方、公立保育園の民営化問題で、東京のある区と保護者の協議会では、民間に移譲すると経済的経営上から新採が多くなりがちのために、「子どもが安心や信頼を感じる『保育の質』確保のために、ベテラン保育士は欠かせないという意見が相次いでいる」という報道を目にしたことがある。母親のメールのように、勤務が長い（ベテラン）保育士であればいいと言う問題でないと思うのだが…。

いずれにしても、施設の充実や保育時間の延長等の多様なサービスの充実もさることながら、より重要なことは、子どもが安心や信頼を感じる「保育の質」とは何かということでないだろうか。

自分が思うに、子どもが発信していることをしっかりと受け止め、その時のいかなる状況にも対応して「受け止めたことを、子どもにしっかりと伝える（受信したことを発信し返す）係わり合いの繰り返し」でないだろうか。

受け止めるとは、何も子どもの発信（内容）を全て満たすということではない。時に満たせないことも、単に「叱る」とか「拒否する」という伝え方でなく、なぜ満たせないかを説明することも伝えることだとも思う。

特に、上下関係が生じかねない関係（親・子、保育士・園生、教師・生徒－学生－、上司・部下、等々）で、上の立場になりがちなのは、相手が指示に従うのは当然と思わずに、受信したことを発信し返すように心懸けなくてはならないことと思う。

子どもや障害児に限らずいかなる人間関係においても、こうしたやりとりの積み重ね（相互交渉）こそが、信頼を得るといふ、具体的、かつ、基本的な営みでないかと思うこの頃です。

（2006年8月17日 記）